エコマーク ニュース

Eco Mark News

エコマークは(財)日本環境協会が自主的に運営している事業です。エコマークの活動予算は、すべて認定企業の皆様からのエコマーク使用料および商品認定申込者の皆様からの商品認定審査料でまかなわれています。「エコマークニュース」では、「エコマーク事業実施要領」に基づき、エコマーク事業に関する情報を提供しています。

2012.8.15 No.87

「エコマークアワード2012」募集のお知らせ

エコマーク事務局では、エコマーク商品等、環境配慮型商品普及への優れた取り組みを表彰する「エコマークアワード」を今年も実施いたします。

この表彰制度は、環境配慮型商品普及に関する優れた取り組みを広く公表するとともに、エコマーク商品等のより一層の普及拡大を通じて、持続可能な社会の実現に寄与することを目的として、2010年度に創設されたものです。

第３回となる今年度の募集概要は以下のとおりです。

〈表彰について〉

- 賞の種類：エコマークアワード 金賞、銀賞、銅賞［公募］
  プロダクト・オブ・ザ・イヤー［エコマーク認定商品の中から選考］
- 選考～表彰の流れ：一次審査（書類審査）、本審査（プレゼンテーション、2012年11月下旬予定）を経て2013年１月上旬に受賞者を発表します。表彰式は2013年２月上旬に行う予定です。

〈募集について〉

- 募集対象：エコマーク認定商品保有企業またはエコマーク商品等の普及に貢献している企業・団体
  （なお、プロダクト・オブ・ザ・イヤーは2011年度、2012年度に認定されたエコマーク認定商品の中から選考します。）
- 募集期間：2012年８月１日（水）～９月28日（金）

◆詳細はエコマーク事務局ホームページ（http://www.ecomark.jp/award/award_2012.html）をご覧ください。
ご応募をお待ちしております。

認定基準に関するお知らせ

認定基準の制定

以下の認定基準が制定されましたので、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	制定日	有効期限
123	建築製品（内装工事関係用資材）Version 2.11 分類C-7 ～タイルカーペット～	2012年５月１日	2017年12月31日
502	カーシェアリング Version 1	2012年６月５日	2019年 ６月30日

◆認定基準は（http://www.ecomark.jp/nintei.html）をご覧ください。

認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付

以下の認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付について、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	公表期間（30 日間）
新規	ホテル・旅館 Version 1	2012 年 7 月 30 日～2012 年 8 月 29 日

◆認定基準案、パブリックコメントの受付については（http://www.ecomark.jp/nintei2.html）をご覧ください。

認定基準の改定

以下の認定基準の部分的な改定の実施について、お知らせいたします。（Version の No. は改定前のもの）

類型番号	商品類型名	改定のポイント	改定日
114	紙製の包装用材 Version 2.7	食品容器の安全性確保の追加	2012 年 7 月 5 日
117	複写機 Version 2.11	待機時の TVOC 基準の変更	2012 年 7 月 5 日
122	プリンタ Version 2.8		
118	プラスチック製品 Version 2.5	・難燃剤、抗菌剤基準の変更 ・食品容器の安全性確保の追加　他	2012 年 7 月 5 日
128	日用品 Version 1.15	・難燃剤、抗菌剤基準の変更 ・食品容器の安全性確保の追加	2012 年 7 月 5 日

◆改定点の詳細については（http://www.ecomark.jp/kijyun_archives.html）をご覧ください。

難燃剤・抗菌剤・生分解性プラスチックに係るエコマーク共通規定の見直しについて

「難燃剤の使用について」、「抗菌剤の使用について」、「生分解性プラスチックの表示について」の３種類のエコマーク共通規定（全商品類型に共通の基準）を廃止し、今後は対象物質の使用・表示の可能性が高い商品分野について、個別の商品類型ごとに基準項目を設定することとします。（順次改定作業を実施、2012 年秋頃までに完了予定）

◆改定の内容は、（http://www.ecomark.jp/pdf/kaiei_kyoutsu_120705.pdf）をご覧ください。また、商品類型ごとの改定状況については、（http://www.ecomark.jp/pdf/kaiei_kyoutsu_list.pdf）をご覧ください。

委員会報告

基準審議委員会（第９回）

第9回基準審議委員会が2012年7月2日に開催されました。審議・報告事項は以下のとおりです。

〈審議事項〉

1. エコマーク商品類型（認定基準）案について（P.2 参照）
2. エコマーク商品類型（認定基準）の部分的な改定について（P.2 参照）

〈報告事項〉

3. 難燃剤・抗菌剤・生分解性プラスチックに係るエコマーク共通規定の見直しについて

◆資料等詳細は（http://www.ecomark.jp/kijyun_archives.html）をご覧ください。

新 認定商品のご紹介

おもちゃの分野で第１号となるエコマーク認定商品が誕生
――ロングセラー鉄道玩具のレールに再生プラスチックを採用

子どもが日常生活の中で繰り返し遊ぶおもちゃには、品質はもちろんのこと安全性、耐久性などが求められます。近年、これらの要素に加え環境の側面が重視されるようになってきています。

(株)タカラトミーは、業界の中でもいち早く商品の環境対応の重要性を認識し、環境に配慮したおもちゃの開発・普及を進める「エコトイ」活動を展開しています。こうした取り組みの一環として、同社の代表的な商品である「プラレール」の一部商品が、商品類型No.118「プラスチック製品」においてエコマークの認定を取得しました（認定番号12 118 001）。

おもちゃの分野で第１号となるエコマーク認定であり、これを契機に環境に配慮したおもちゃへの認識や関心が高まり、普及が進むことが期待されます。

■再生材料を50％以上使用

(株)タカラトミーが1959年から販売しているロングセラーの鉄道玩具「プラレール」は、発売以来、基本規格を変えておらず、世代を超えて長期にわたり使い続けることができるため、資源消費や廃棄物発生の抑制につながっています。

こうした側面に加え、レール部品に再生プラスチックを使用することにより環境性能をさらに向上させ、2012年６月にエコマークの認定を取得しました。認定の対象は「エコ直線レール」と「エコ曲線レール」で、原材料の50％以上に再生プラスチックが使用されています。試算によれば、再生材料を使用することで、ライフサイクルを通じたCO_2排出量が従来の商品に比べ約１割削減されます。

エコマーク認定の(株)タカラトミーの
「エコ直線レール」と「エコ曲線レール」

製品開発にあたっては、品質や安全性の確保に加え、発色の難しさをいかに克服するかといった点が課題となりました。試行錯誤の結果、再生材料の割合を高めつつ品質等のレベルを維持し、エコのイメージを持つグリーンのレールの商品化に成功しました。

■消費者の環境意識の向上に貢献

(株)タカラトミーが実施したアンケート調査や顧客とのコミュニケーションを通じて、おもちゃの環境配慮に対するニーズが大きいこと、子どもたちのエコへの関心が高いことなどが確認されました。また、エコマークの認知度の高さも明らかになりました。

同社では、エコマーク認定商品の普及を図り、より多くの子どもたちに遊びを通してエコに気づいてもらうために、「エコ直線レール」と「エコ曲線レール」を軸に、その他の部品やプラレール車両等とのセット商品などへの展開を進めていく計画です。また、アンテナショップである「プラレールショップ」の店頭や「プラレール博」（年間動員数約22万人）等のイベント、商品カタログ、アンケートなどさまざまな機会を通じて、商品の環境配慮やエコマーク認定に関するコミュニケーションの充実を図っていく考えです。

「プラレール」は2～7歳男児の認知率が88.1％、所有率が72.3％（タカラトミー調べ）と、多くの男の子が遊ぶおもちゃとして広く普及しています。これまでに販売された同商品のレールの総延長は、約10万km（地球約2.5周分）に達しています。このような商品において環境配慮の取り組みが進められ、コミュニケーションが図られることは、子どもやその家族をはじめとする多くの消費者の環境意識の向上に寄与するものと思われます。

◆(株)タカラトミーのウェブサイト
http://www.takaratomy.co.jp/
(株)タカラトミー「エコトイ」のウェブサイト
http://www.takaratomy.co.jp/eco/

トピックス

「日中韓環境ラベルの相互認証（複合機の共通基準）の合意書」を締結

（財）日本環境協会は、中国環境保護部環境認証センター（CEC）と韓国環境産業技術研究院（KEITI）との間で、「日中韓環境ラベルの相互認証（複合機の共通基準）の合意書」を締結しました。調印式は、第14回日中韓三カ国環境大臣会合の開催地（北京）で、5月4日に日中韓環境大臣の立ち会いのもと行われました。

また、今回の協定締結に合わせて、「相互認証の手順に関する合意書」および「運用の規則に関する合意書」も締結されました。これにより、日中韓3カ国の環境ラベルの相互認証の仕組みが整備され、今後さらに相互認証の活用による相手国の環境ラベルの認定取得が進むものと期待されます。

今後も相互認証の対象分野を拡大していく予定で、2012年度は「DVD機器（ブルーレイディスクを含む）」の共通基準化を進めています。

日中韓環境ラベル相互認証の調印式の様子

【エコマーク事務局からのお知らせ】

■エコプロダクツ展に出展します

エコマーク事務局は、12月13日～15日に東京ビッグサイトで開催される「エコプロダクツ2012」に出展します。今回の出展では、エコマーク事務局ブース内にエコマーク使用契約企業のミニブースを設け、エコマークとエコマーク認定商品の紹介をメインとした展示を行う予定です。

つきましては、エコマークブース内に共同出展いただける企業・団体を募集します。詳細が決まりましたらエコマーク事務局ウェブサイトおよびメールマガジンにてご案内いたします。

■ Facebookはじめました

エコマーク事務局はFacebookページを開設しました（http://www.facebook.com/ecomark.jp）。エコマークの関連情報やエコマーク認定商品など、生活に身近な情報を発信していきます。QRコードからも簡単にアクセスしていただけますので、ぜひご覧ください。

QRコード

エコマークニュース 第87号　2012年8月15日発行

編集・発行／財団法人 日本環境協会　エコマーク事務局
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9F
TEL：基準・認証課　03-5643-6253　FAX：03-5643-6257（各課共通）
総務・契約監査課　03-5643-6255
普及・国際協力課　03-5643-6255
Homepage：http://www.ecomark.jp　E-mail：ecomark@japan.email.ne.jp

エコマークは（財）日本環境協会の登録商標です。